

令和4年度
第2回

江東区総合教育会議議事録

令和5年2月14日（火）

江東区教育委員会

令和4年度 第2回江東区総合教育会議 議事録

- 1 開会年月日 令和5年2月14日（火）午後4時00分
- 2 閉会年月日 令和5年2月14日（火）午後5時03分
- 3 開 会 場 所 江東区防災センター4階 災害対策本部室
- 4 出 席 委 員 区 長 山崎孝明
教育委員 本多健一朗（教育長）、眞貝裕利子、
鈴木清人、本田和恵、安部敏啓
- 5 出 席 職 員 杉村教育委員会事務局次長
星名庶務課長、西尾学校施設課長、太田整備担当課長
賀来学務課長、飯塚指導室長、守屋教育支援課長
笠間地域教育課長、棚瀬江東図書館長
長尾政策経営部長、大塚企画課長

6 議題

- （1）江東区オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを未来へ
ーオリンピック・パラリンピック教育レガシー活用事業の活動についてー
- （2）「こどもまんなか教育」の実現に向けて
ー学校園におけるこどもの主体的な活動についてー

7 審議概要

杉 村 次 長 それでは定刻となりましたので、これより令和4年度第2回江東区総合教育会議を開催いたします。
初めに開会にあたりまして、主宰者であります山崎区長よりご挨拶をお願いいたします。

山 崎 区 長 本日はご多用の中、ご参加いただきましてありがとうございます。コロナでございますがいよいよ5類に移行するということで、文科省からも、卒業式でのマスクは本人の家族の自由にと。強制をしないということになったようでございます。そうした中でも、教育委員会の皆様には、大変ご協力いただきありがとうございます。この会議では平成27年度に設置して以来、多岐にわたる課題について議論してまいりましたが、本日の総合教育会議では、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーにおける、取組のほか、こどもの主体的な活動について議論してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

杉 村 次 長 ありがとうございます。
それではここからは、山崎区長に進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

山 崎 区 長 本日の議題に入ります。
「江東区オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを未来へ」を議題といたします。事務局より説明願います。

飯 塚 指 導 室 長 一つ目の議題、「江東区オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを

未来へ」についてお伝えします。本区ではこれまで、「江東区オリンピック・パラリンピック教育推進計画」に基づき、区内に競技会場が多くあるメリットを生かしながら、全てのこどもたちが体験を通して関われるように取り組んできました。また、学習する際には「こどもテーマ」を設定して、主体的に取り組めるよう努めてまいりました。東京2020大会時には、選手たちをおもてなしする「こうとう☆花いっぱい運動」や、オンラインでの応援メッセージを行いました。大会後には、聖火トーチを区内全校園でリレーし、全てのこどもたちがトーチに触れて、大会を振り返ったり、大会に出場した選手によるオンライン学習を行ったりしました。

次に、今年度から取組を始めました「オリンピック・パラリンピック教育レガシー活用事業」についてです。「KOTO☆ボッチャフレンドリーマッチ」と瀬立モニカ選手による「心の教育授業」を通じて、こどもたちの夢を広げる取組を実施いたしましたので、その内容をお伝えします。まずは、「KOTO☆ボッチャフレンドリーマッチ」についてです。こちらは山崎区長、教育委員の皆様にもご出席いただきましたが、先日の1月17日に有明アリーナのサブアリーナにて行いました。こちらは今年度が第1回の開催となりましたが、東京2020大会にて実際に試合が行われた区内会場で、こどもたちが「ボッチャ」を体験する機会を通して、オリンピック・パラリンピック教育で育む資質・能力を身につけ、今後のレガシーとして繋げていくことを目的としました。こちらは実際の試合の様子です。この大会の様子は江東ワイドスクエアでも放映され、多くの方にも見ていただいております。本日は、その映像のダイジェスト版をご覧ください。

— 映 像 —

本大会については、来年度も1月に開催を予定しております。

次に、中学校、義務教育学校（後期課程）対象のパラカヌー瀬立モニカ選手による「心の教育事業」についてです。こちらは、東京2020大会にも出場されたモニカ選手との交流を通して、中学生が夢に向かって努力する大切さをねらい、実施いたしました。内容としては、実施校において1時間目は、モニカ選手に講演をしていただき、2時間目は生徒主体で内容を考え、モニカ選手とのクイズ大会や、カヌー教室等を実施しました。モニカ選手からのメッセージを受けたこどもたちは、画面にありますように、思い思いの感想を持つことができました。それでは、実際の映像をダイジェスト版をご覧ください。

— 映 像 —

こちらの事業は、3年計画で中学校、義務教育学校全校で、実施していきます。

最後に、レガシー活用事業の今後についてです。画面にもありますように、これまで目指してきた「オリンピック・パラリンピック教育の意義」を踏まえ、各学校、園において「重点的に育成すべき資質」の育成の、その一歩先を見据えて、今後も教育活動を行ってまいります。今後も江東区立学校園においては、これまでの、江東区オリンピック・パラリンピック教育推進計画に基づき行ってきた取組により、高まった「こどもの資質」や「充実した学校の指導のノウハウ」等のレガシーを今後につなげていくことを目指していきます。具体的には、先ほどお伝えしました2つのレガシー事業に加えて、カ

ナダ短期留学等における豊かな国際感覚の醸成や、体験学習を通じたボランティアマインドの育成等を行ってまいります。また、有明アリーナを含め区内にある競技会場においてこどもたちが活動したり観戦したりする機会を積極的に設定していき、全てのこどもたちがオリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、「だれもが笑顔に過ごし」、「夢をもって実現すること」や「多様性の理解」ができるよう、活動を促進してまいります。本議題については以上です。

山 崎 区 長 本件について質疑を願います。眞貝委員。

眞 貝 委 員 江東区には多くのオリンピック会場があり、各学校で建築中から見学等をしていました。現在の会場施設についての見学等を予定していますでしょうか。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 具体的にこの施設の見学をするという計画は今のところはありません。ただ、今後アイスアリーナ等、そういった施設も整備されていく状況もありますので、その状況を見てこどもたちに見学の機会とかそういったものを作っていきたいと考えております。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。本田委員。

本 田 委 員 最後の「重点的に育成すべき資質」について伺います。5つの資質、育成すべきポイントがありましたが、その中で「日本人としての自覚と誇り」という項目があります。都の内容ですと日本の伝統や最近の文化への理解、日本の伝統文化を世界に発信とありますがそのような取組は具体的にされているのでしょうか。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 オリンピック・パラリンピック教育は特別に特化した教育ではなくて、日常の教育活動の中で、しっかりと組み入れて行っていくものでございます。オリンピック・パラリンピック教育推進計画で今ありました「日本人としての自覚と誇り」については、これまでも国語スタンダードで「俳句づくり」に江東区のこどもたちは取り組んでおります。こういったことで、日本人としての文化や良さ等にも気づくというような取組を行っております。また、具体的にオリンピック・パラリンピック教育として行ってきたことは、世界の国旗国歌について学ぼうということを行ってきまして、世界を知る、そして日本の良さを知る。そういった取組を進めてまいりました。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。安部委員。

安 部 委 員 最後の資料のレガシーを生かした教育の推進について、「充実した学校の指導のノウハウを今後につなげる」という箇所がありますが、こちらはオリパラ教育によって、教員側にも一定の指導力の向上や、新たなノウハウというのが蓄積されたと解釈できますが、この部分について具体的に説明いただけると助かります。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 教員については、オリンピック・パラリンピック教育を通して様々な教育活動があります。その中に例えば、多様性の視点であるとか、障害者理解の視点、そういったところでの教育活動を捉えて、こどもたちに何を身に付けさせたいか、そういったところを明確にしながら取組を進めることができた。これはオリンピック・パラリンピック教育を通して得られた教員の、指導力向上ではないかと考えております。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。鈴木委員。

鈴 木 委 員 1月17日のボッチャ大会にともに参加させていただいて、非常に良かったなと思いました。感想的にはですね、こどもたちが非常に楽しそうにやっていたってことと、それから先生たちも一緒になって応援して、一体感があって、通常の授業と違ってとても、みんなウキウキ楽しそうにやっているなという感覚を受けました。その中で29校、230人の参加ということで、来年の1月も2回目をやるというお話も伺いましたけれども、少し感じたのは、会場の観客の動線と言いますか、学校の仕切りが少し雑然としていたかなという感じがしますので、荷物の置き場ですとかロッカー等を会場で使えるようになると、ボッチャの競技そのものがもう少し広く、有意義に使えるのではないかなと感じました。

もう1点は今回、急に開催したということですからけれども、全校の参加があって、予選とか決勝とかっていう形で全ての小学校の子が29校ではなくて、参加できるような形にするともっと良いのではないかなと思いました。

最後もう1点は、今回、学校教育の中でボッチャというスポーツになりましたけれども、例えばもっと広めるために、ファミリースポーツデーみたいなところで、親子で一緒にやるとか、友達同士でやるとか、あの広い会場の中でやってみて、周りの人が親しんでいただければ、今後はこのボッチャの推進のためには良いのではないかなと思うのですが、3点いかがでしょうか。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 第1回ということで、私たちもどんな形になるかなというようにところも、ある程度想像はしてきたのですが、やはり会場の都合であるとか、会場の利用できる場所の制限であるとか、後は中に入る人員の制限ですね。そういったところで、今回の形については、校長会とも協議をしながら決定した経緯がございますので、来年度についてもまたやり方とか、後はロッカー等ですね、もう少し整理されたような形で、控え場所を設定するとか、そのあたりについては考えていきたいと思います。

また競技を全校で取り組むということですが、会場に集まらなかった学校についても、校内でボッチャの体験や、ボッチャの競技を必ず行うということでやってきましたので、他の学校についても校内のボッチャ大会で、決勝大会まで勝ち上がってチャンピオンを決めたとか、そういった取組もなされているということをご紹介します。来年度の形についてはまた検討をしていきたいというふうに考えております。

3点目の様々な親子とかそういう取組をということですが、例えばファミリースポーツチャレンジ、これはスポーツ振興課が行っていますが、そういったところで親子での取組ができないかどうか、情報を共有したいと思えますし、様々広がっていく、例えば特別支援学校での交流であるとか、そういう機会もできるかなと思っていますので、このボッチャを通してですね、

様々な広がり在今后展開していきたいと考えております。

山 崎 区 長 全校が参加するのであれば、メインアリーナを使わなければ難しいのではないかと。今回メインアリーナはなぜ使えなかったのか。予算とかそういうことなのか。何が理由でサブアリーナになったのか。

本 多 教 育 長 私から少しお話させていただきます。今の区長のおっしゃる通りで、できればメインアリーナでさせてあげたいなという思いはあります。今回、予算の関係と、使えるか使えないかというところで、サブアリーナという形でしたが、できればメインを使えれば。先ほど鈴木委員からも動線の話がありましたけど、もっとこどもたちを沢山参加させてとか、また保護者の方に見に来ていただくとか、そういったことを考えれば、メインアリーナを使いたいなと思います。今、実はメインアリーナも使えないかどうかということ、指導室がアリーナに問い合わせをして、少し調整をしています。そのあたり区長はいかがですか。メインアリーナを是非使った方が良いという意見ですか。

山 崎 区 長 現実から言って20数校を参加させるだけでも会場の規模的にサブアリーナで精一杯だろうから、やはり鈴木委員からのご意見があったように、できるだけ全校が参加したほうが良いので、それだったらメインアリーナを使うしかない。なので使えるように努力する。予算がなければ予算つけるしかない。参加した学校と参加しなかった学校の差があってはいけないと思います。

本 多 教 育 長 ありがとうございます。私も区長のおっしゃる通りだと思っていて、先ほど鈴木委員から意見が出ていますように、全校が参加するという形でできれば一番望ましいですし、有明アリーナのメインアリーナを使える方向で少し調整を進めてまいりたいと思っております。

山 崎 区 長 小学校でそのような大会をやっているのは、ドッジボールがある。スーパードッジボールというのは、各スポーツセンター、地域ごとに各学校が3～6年生の代表チームが、地域ごとにチャンピオンを決めて、そのチャンピオンが今度はスポーツセンターで総合優勝を目指すということをやっている。もう16回やっている。そういうのも参考にして、来週ありますが、教育委員会もやはり行って見る必要がある。同じ区がやっていて、スポーツ振興や、健康スポーツ公社とかではなくて、良いところはやはり取りこんでやる必要はある。教育委員は行って見ているからわかっていると思いますが、スーパードッジボールはものすごく盛り上がっている。最近聞いた話だと、豊北小が毎年結構強い。それで聞いてみたら、前回優勝した今中学1年生が、小学校へ来て、一緒にその練習してあげている、対戦相手になっている。やはりそういう意気込みというのは、こどもの時代にそういうものを体験するというのは、勝ち負けよりも先輩、後輩との繋がりとか、そういったことでも非常に大きなものがあると思う。それだけ熱が入っている。少し保護者の応援が激し過ぎて批判を浴びたこともあるけれども、そこは注意をして直すところは直す。真似るところは真似るべきだと思うので、そういったことを現場に行ってみていただきたい。来週の日曜日にスポーツセンターに行ってみる必要がある。それはお願いします。

本 多 教 育 長 私もスーパードッジボールを見に行ったことがあります。有西の子たちも出ていましたのでよく知っています。今区長からご提案あったことも含めて、よりよい会にしていきたいなと思います。ありがとうございました。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。眞貝委員。

眞 貝 委 員 先ほど区長がおっしゃった通り、本当にドッジボールの盛り上がりはすごいです。もう各学校、こどもたち非常に熱心にやっております。ただ私いつも思うのが、ドッジボールに特化しているこどもたちだけが出られるってということで、ボッチャに関してはもう障害も男女関係なく、学年も関係なくできるということで、これは非常に素晴らしいことだと思います。先ほど教育委員の意見も出ましたが、トーナメント方式にして地区予選にするとか、そして勝ち上がっていけば、有明アリーナで試合ができるんだってこどもたちが思えば、一生懸命練習をするでしょうし、学年問わず、障害等も問わずにできるってということで、全学校の参加でやっていただきたいというのがあります。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 今、ご意見いただいたものを含めながら、来年度の実施について検討してまいります。ドッジボールも参考にして大会が盛り上がるように、また全校が参加できるような形でということで、検討してまいります。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。安部委員。

安 部 委 員 今のボッチャのお話で、ドッジボールは私もとても熱くなったのを今思い出しました。そういった意味では、今回ボッチャについてフレンドリーマッチという形なので、特に優勝や金メダルを取るということを決めていなかったと思います。ただそれでも、1 試合 1 試合の中で、こどもたちは勝つと大喜びしている。そう思うとやはり勝ちにこだわるということも、一つの価値として私は大切ではないかなと思います。そういう意味で来年の方向性ですが、参加校はできるだけ増やすというのは当然だと思いますが、勝ちというものを目指すような大会という意識で考えているのか。それともあくまでもフレンドリーマッチで進めていこうということなのか、方針は今どのような状況でしょうか。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 今年度第 1 回ということで、どんな大会にしようかと校長会とも協議を重ねてきて実施した経緯があります。その中でボッチャという競技自体が、競技で 1 位を決めるというよりも、ボッチャを通して様々な交流ができるように、実際フレンドリーマッチでは特別支援学級のこどもたちが代表として出て、通常学級のこどもたちと対戦をしたり、学年が低中高とかそういったところで組み合わされた学校等、様々な交流ができましたので、この第 1 回目としては、よくできたと感じております。2 回目についても今、様々なご意見をいただきましたので検討してまいります。方向性として今年と同じ形で、絶対行くですとか、1 位を目指していくような形で実施するですとか、そのあたりについては具体的にはまだ決定はしていませんので、これからまた校長会とも協議を重ねて、方向性を定めていきたいと考えております。

本 多 教 育 長 今の件、スポーツなので、やはりそこはこだわる場所あると思います。こどもたちの様子は今、安部委員がお話されていて、私も見ていて非常に真剣に考えて勝ったら喜んでというところがありますし、やはりスポーツです

から、私もそこは大事なかなと思っています。今回、ただフレンドリーマッチにした経緯が、実は、本当はもっと少ないチームでトーナメントを考えていましたが、学校から、こどもたちも是非アリーナに行きたいんだという声がとても多かったのです。まず1回目だから、そこを経験することも大事だからというので数を沢山参加させる。最初8校とか10数校しか参加できない予定でしたが、そしたら30校近く手が上がったので、今回についてはこどもたちのその思いとか経験したいというところを、まずやっていこうというところでありましたので、実際これからどうしていくかというのは、今区長からもお話がありましたし、各委員からもお話があったところは活かしながら、よりよい大会ができればいいなと思います。ありがとうございました。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。本田委員。

本 田 委 員 最後をお願いなのですが、このポッチャに限らず、球技大会や運動会が特別支援学級と別々に開催されているので、できる限り同じ時に一緒になって頑張っていく機会というのを増やしていただきたいと思っています。

山 崎 区 長 その他にご意見ありますか。それでは今の件について、全体的に教育長から何かご意見ありますか。

本 多 教 育 長 レガシーの件は先ほど沢山ご意見いただいたので、そこは活かしてやっていきたいと思っています。レガシーというと、先ほどのモニカ選手の授業のように、ソフトとしての心のレガシーと、それから先ほど話題に出ていた競技場としてのハードのレガシーと両方ありますが、それをどう活かしていくかということが大事で、オリンピック・パラリンピック教育については、区長もご存知のように沢山のことをやってきて、成果を上げられたと思うのですが私はここから大事なかなと思っています。今回のモニカ選手の授業も2時間目にこどもたちに考えさせる意義というのがとてもあって、モニカ選手にただ来ていただいて話を聞いて終わりではなくて、自分たちが、モニカ選手と交流するために、どういうことを考えてやったらいいかということを通して多様性等、様々そういったことをこどもたちに考えさせることが大事で、もっと言うと、今までオリパラ教育でやってきたことをこどもたちが身に付けた上で、私は自分たちは何ができるかを考えて、これから行動できるようなこどもたちにしていかなければいけないと思っていますので、今回のポッチャ大会もそうですけど、モニカ選手の心の教育授業、これからはこどもたちが実際によく考えて、行動に移せるような、それをレガシーとして繋げていくことが、非常に大事なかなと思っています。

「教育推進プラン・江東（第2期）」の中では、オリパラ教育については実は「多様性を認め合う教育」に位置付けています。そういった部分では、先ほど本田委員からも特別支援学級のこどもたちと通常学級のこどもたちの話もありましたけど、そういったことも含めて、何かこう分けていくとか壁を作っていくのではなくて、ともに考えていくとかともに生きているわけですから、やはりそういったところを実践できるこどもたちをしっかりと育てていきたいと思っています。ありがとうございました。

山 崎 区 長 その他にご意見ございませんか。よろしいですか。それでは本件は終わります。次に、「こどもまんなか教育」の実現に向けて」を議題といたします。事務局より説明願います。

飯 塚 指 導 室 長 それでは「こどもまんなか教育」の実現に向けて」についてお伝えします。今年度、本区では、「こどもたちの今は今しかない。こどもたちにとっ

て大切なことは必ず行う」という方針に基づき、感染症対策を理由として、こどもたちの学び、様々な活動を止めることはしない。そして、そもそもの教育的なねらいに即して、コロナ以前に戻すのではなく、よりよい形にして前に進める方針に基づき、各学校園においてこどもたちの成長を支えてきました。また、今年度の江東区の教育施策を推進するテーマとして、「つなぐ、ひらく、かがやく～成果の実感～」を設定しました。この3つのキーワードにあるように、「つなぐ」では、心や学びや育ち、さらには、地域や人と「つなぐ」ことを確かに行い、「ひらく」では、各学校園の教育課程、授業や活動を積極的に「ひらく」ことを通して、こどもたちや関わる人々、学校、園が「かがやく」ことを目指しています。そして、こどもも大人も、自らの実践の成果を実感できることを大切にしていきました。また、本年4月1日より、「こども基本法」が施行され、同時に「こども家庭庁」も設置されます。まさに、「こどもまんなか」社会、「こどもまんなか」学校が求められています。これからは、こどもの人権尊重の一層の充実を図ることが重要となってきます。特に、学校教育においては、「こどもの権利条約」の4つの原則の一つでもある、「意見を表明し、参加できる権利」に基づき、児童生徒の意見を尊重した、児童生徒が主体的に取り組む活動を確実に推進していくことが必要であります。各学校には、児童生徒が自分事の学びとして、自ら追究していく「こどもまんなか」授業を目指していくことを求めていますと考えております。また、「こうとう学びスタンダード・ネクストステージ」では、これまでの取組をベースに、現在の学習指導要領の趣旨の具現化と、3つの柱となる資質・能力の育成を目指した、「授業改革」を行うことを目指しています。これまでの効果的な実践に加えて、整備されたICT環境等を活用しながら、各学校において主体的・対話的で深い学びの充実の視点に立った授業改革を進めてまいります。

「授業改革」の具体的な内容についてです。まずは一人一台端末を中心としたICT機器を当たり前の学習ツールとして当たり前に活用していくことが重要です。画面にありますように、グループで考えを共有したり、自らの考えをプレゼンしたりする活動を行い、「授業改革」を促進してまいります。また、端末を利用して、リアルタイムで児童生徒の学習状況を把握したり、学習データをスタディログとして蓄積したりすることで、一人一人に応じた支援や評価することについても充実させてまいります。個別最適化された学びの実現に向けて、今後も一人一台の学習者用端末の有効活用を目指してまいります。

続いて、今年度、学校園で行われた「こどもが主体となった取組」についてです。本日の資料「こうとうの教育」も一緒にご覧ください。今年度1月に発行された「こうとうの教育」においても、「こどもまんなか社会」について特集し、広く区民の皆さまにお伝えしたところです。こちらは、第三砂町中学校の生徒による「いじめについて考える」出前授業です。第三砂町中学校が「全国いじめ問題子供サミット」に東京都代表で参加しました。生徒たちがそこで学んだことを基に、第三砂町小学校へ出前授業を実施しました。こちらは、生徒が主体となった「校則の見直し」についてです。各中学校では、これまでの「学校生活のきまり」、いわゆる校則の内容を生徒が主体となって見直しました。活動の例としては、生徒会が設置した意見箱で意見を集約し、新たなルールの作成等、学校の生活のきまりについても、自分たちが考え、なぜ守らなければいけないのかを理解して決定しています。こちらは、学校改築時に行う「ワークショップ」、こどもとともに考える取組の紹介です。江東区では、学校の改築工事を行う際に、事前にワークショップを開催し、こどもたちの想いを反映できるような取組を行いました。これまでお伝えした、こどもたちが主体的に活動する取組については、先日の「こうとう学びフォーラム」において、代表的な事例をこどもたちの活動や声で発表いたしました。この後、映像をご覧いただきますが、内容としては、幼稚

園において、年長児が最後の遠足に行く際に、目的地での過ごし方を自分たちで計画し、保護者の協力を得ながら、当日を迎える様子や「こどもも先生も主体的に活動する水曜日」として設定している「Challenge Wednesday」において、自主的に調べたことをこどもたちが発表する集会や、授業で学んだことを発表する時間において、発表者が原稿なしで身振り手振りを交えて、表現力豊かに伝える取組や、よりよい中学校生活を目指して、生徒会で話し合ったことを全校生徒に呼びかけるといった、こどもたち主体の取組を発表しました。それでは、その様子の一部を映像をご覧ください。

映 像

教育委員会では、こどもたちがより主体的に活動できるような環境づくり、支援に努めてまいります。そのため令和5年度には、画面にもありますように、こどもまんなか授業の実現に向けて、「読解力向上ワークシート」の実施や、こどもたちがいきいきと自分の考えを伝えられるよう「発表力向上」に向けたモデル授業や教員研修の実施を新たに行ってまいります。今後も、こどもたちや、教師一人一人が輝けるよう支援してまいります。本議題については以上です。

山 崎 区 長 本件について質疑を願います。眞貝委員。

眞 貝 委 員 今回の学びフォーラムは各学校園にとっても良い刺激になったと思います。タブレット端末をこの3年間使用しておりますけれども、各学校によって温度差があるのは現実だと思います。それを教育委員会からもっと活用できるように、是非ご指導をよろしくお願いいたします。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。本田委員。

本 田 委 員 私も学びフォーラムを見て、今年のこの実施の方法は本当にとっても良かったなと感じています。こどもが主体的に学ぶ、自分で調べて自分でまとめて発表して意見交換をするという流れは、これから必要なスキルですので、とても良い取組だなと感じました。その中で、カンボジアの小学校との繋がりがありません。これは先ほどのレガシーの話で、国旗の勉強ですとか、給食に出てきたっていうのはこれまでの勉強、取組としてはいいのですが、これは国際感覚というところではないのかなと感じます。こうしたカンボジアの小学校とのやりとりの中で、例えば、今足りないものは何ですかと質問した時に、「仕事」という答えが返ってきたのを見て、こういう考えの違いがあるのだということを学ぶのが国際感覚なのだろうなと思っていますので、あのような授業をどの学校でもやってほしいなと思ったところなのですが。コーディネーターがいたように感じます。海外の小学校と繋ぐというのは、どの学校でもできるような仕組みがあるのでしょうか。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 今、カンボジアとの学校の交流のお話がありましたけれども、非常に国際感覚、そういったところを育てる意味でも、また違いを知り、日本の良さを知るといいうところにも繋がって、良い取組だなと思っています。実際に全部の学校で進められるかというと、やはりコーディネーターとか、向こうとの繋がりが先生を介してとか、そういったところがありますので、全ての

学校が同じようにできるというところは、現状はありません。ただ、端末がありますので、その端末を活用して交流する、そのハード面ではできる状況がありますので、今回発表されたカンボジアの取組とか、他の学校にも紹介したわけですから、それを少しずつこう広げていって、先ほどもありました国際感覚豊かな子どもたちを育てていきたいと考えております。

本 多 教 育 長 先ほどノウハウという話がありました。これもノウハウだと思います。この学校がこれでできて、他の学校がやりたいのであれば、どうすればいいかということ共有していくことは、とても大事だと思うので、これも教育委員会の方でもっと詰めて、話を持っていきたいなと思います。確かに全ての学校でこれができたら、それは素敵なことですよね。実を言うと、私はできると思っています。オンラインで繋ぐことができていますので、先ほど指導室長が言ったように、窓口がどこかあればいいということなので、実は各学校がオリパラ教育を通して培ったノウハウの一つに、大使館と交流をするとか、留学生を招く窓口を知ったとか、そういうのもノウハウですので、そういったところから、窓口等の担当者を紹介してもらうということは正にできることなので、そういったことは学校の要望も合わせて、うまくまとめたいたいなと思います。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。安部委員。

安 部 委 員 こうとう学びフォーラムについて、現場に行き、皆さまの準備の段階から見させていただき本当にありがとうございました。とても綿密に取り組まれている、準備にとっても大変な思いをされているということを感じたので、ここで改めて御礼申し上げたいと思います。ただ、個人的には映像となります。これ紙1枚と比べますと、少し編集するにしても、とても時間がかかるというのは想像に難くないですね。ここまでしなくても十分伝わるのではないかなと思ったので、指導室の皆さん、教育委員会の働き方改革という意味では、もう少し緩くても身内に伝えるレベルでは、ここまで精度高くなくてもいいかなと思うので、そんな気が少ししました。とても素晴らしいものではありましたがという感じです。

質問ですが、ページの最後に、こどもも先生も「かがやく」と書いてくださっています。先生がとても楽しくこどもたちに接してもらうことは、私はとても大事だと思っていて、是非進めてほしいと思っています。具体的には、先生も輝けるような施策として今実施していることですか、またはこれから来年度に向けて検討しているような取組が具体的にあれば教えてください。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 先生も「かがやく」というところテーマに基づいて話をしましたが、やはり輝ける先生っていうのは、教えるということ、もちろん教員としての資質を高めるということもそうですけども、やはりワークライフバランスも取れた、そういう教員が輝けるものかなと思っております。施策としてはやはり水曜日、「Challenge Wednesday」を設定して取り組んでおります。この時間を例えば、自分の資質向上に向けた研修の時間にすると等、そういったことを繰り返すことによって、先生たちも輝けるのではないかなと思っています。施策としてはやはり働き方改革ということで、様々な業務の負担を軽減しながら、こどもと向き合える時間を多く作って、こどもも先生も「かがやく」、そのような取組を進めていきたいと思っています。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。鈴木委員。

鈴 木 委 員 3点お聞きしたいと思います。1つは生徒会による校則の見直しというお話がありましたけれども、具体的にどんな校則が見直されたのか、その結果における効果と、教育委員会としてはどのように評価しているのかというのが1点です。

2点目は、小学校の改築のワークショップというお話がありました。こちらも子どもたちからどのような意見が出て、どういうことが反映されたのか。それからこれからは改築する学校が続くと思いますが、今後の展開や予定はどのようになっているのか。

3点目は、先ほど本田委員から少しお話がありました、カンボジアオンラインの話ですが、なぜカンボジアが選ばれたのか、それを聞きたいと思います。

山 崎 区 長 指導室長。

飯 塚 指 導 室 長 まず1点目の具体的な校則の見直しということですが、先ほどありましたように、例えば生徒会で意見箱を設置して、様々出された校則の見直しについて検討し、また協議をして先生たちともお話をし、決定したという経緯があります。具体的には例えば、衣替えが6月に決まっていたが、それをなくしていこうというようなところが生徒から上がって、衣替え期間をなくして、寒い時は上着を着てもいいし、暑い時は夏服でもいいし等、そういった取組をしている学校があります。また靴について、今まで革靴が指定されていた。スニーカーとか、そういったもので登校できないかというようなところで、具体的に靴の指定をなくした学校があります。また、ジャージでの登校も可とするような学校ですとか、そんな取組も、校則の見直しというところではありました。

効果としましては、生徒が主体的に関わることで、やはり自分で守っていくとか、後は自分たちで決めたのだから自分たちで守っていこうと、生徒同士で投げかけるとか、また、一面的に生徒からの立場だけで捉えるのではなくて、やはり社会の情勢であるとか、多面的に一つの校則についても考えて、具体的に変えたほうがいいのか、これはしっかり守っていかなければいけないのか、そういう判断する力もついた。それが効果として挙げられると思います。

3点目のカンボジアとの交流、なぜカンボジアだったのかというところについては、オリパラ教育に「世界ともだちプロジェクト」がありますが、そこで、辰巳小はカンボジアの調べ学習をしました。そこから広がって、今度はカンボジアの学校と交流したいというようなことが出まして、今回実現したという経緯がございます。

山 崎 区 長 学校施設課長。

西尾学校施設課長 2点目のところでございます。今年度、小名木川小学校の改築ワークショップを実施してございます。ワークショップでは児童から雨の日でも活動できるスペースがほしいという意見がありまして、1階に広めのピロティの設置を計画してございます。また短い休み時間でも、屋外に出たいという意見もございまして、各階にテラスの設置を計画しているところでございます。今後の改築ワークショップでございますが、長期計画に基づきまして、令和10年度の竣工を予定してございます第六砂町小学校改築工事の設計が、令和6年度から実施予定でございまして、その基本設計においてワークショップを実施する予定でございます。今後も引き続き子どもたちの意見を

取り入れながら、よりよい学校づくりを進めてまいります。

山 崎 区 長 その他にご意見ございますか。それでは今の件について、全体的に教育長から何かご意見ありますか。

本 多 教 育 長 こどもたち本当にどこの学校に行っても輝く姿であるのですね。なるべく私も沢山見たいと思って学校に行ってみてきたところではあります。先日二十歳のつどいで、こどもたち立派になったよなどと区長も言ってくださって、二十歳の姿が立派でこれは教育の成果だなと区長にも褒めていただいたところですが、ここのところずっとこどもたちの様子を見てみると非常に成長してきているなというのは実感としてあります。やはりそれは区長がお話いただいたように教育の取組、学校の努力というのは私はあるのかなと思うのですが、先ほど紹介しただけではなくて、本当にどこの学校でも沢山あるので、それをどんどんもっとう皆さんに見ていただく、伝えるというのは大事な事だと思っています。

先ほど三大小のプレゼン力というのがありましたが、区長もずっと力を入れてくださっているカーボンマイナスこどもアクションで、実はこどもたちがとても身に付いていて、あの学びが他の学びに発展して、実は6年生が国語の授業で、私たちにできることみたいなテーマ学習があったのですが、その時に多くのこどもたちが環境について考えて、これからカーボンマイナス、それこそ二酸化炭素を減らしていくために自分たちで何ができるかとか、環境に良いことをするために何ができるかということが、カーボンマイナスこどもアクションの経験を基に本当に色々なことを考えています。先ほどの三大小の児童たちのところに偶然行った際に、その単元で話をしているのですよ。それがこどもたちが「先生、発表したいんだけどいい」と手を挙げて、先生が「いいよ」と言うと、もう原稿なしで滔々と話すのですね。そうするとこどもたちもそれに質問を投げたりしてやりとりをするわけです。そして終わったら、「私も発表したいんですけど」という形で、どんどん手が挙がるんです。やはりこれからはそういう姿だと思っています。今後は是非カーボンマイナスこどもアクションとの繋がりを、うまく活かしたり区長にも見ていただければいいかなと思っていますが、やはりそういった力がついてきているので、これから更にこどもたちが真ん中だという意識をさせて、こどもたちに自分たちの意見で何かできるんだと、やはり自信を持ってもらったりですとか、達成感を感じながら自己肯定感を高めることはとても大事です。色々なアンケート調査とかで、日本の若者は自己肯定感が低いと言われていたりとか、自分で社会を変えることができるかということに対しての指標が他の国と比べて低いとよく言われていると思うのですが、いや江東区はそうじゃないと言いたいと思いますし、江東区その指標だけは高いですと、何か言えるような取組を是非こう繋げていきたいなと思っています。

先ほど、安部委員から先生が輝けなくては駄目だという話ありましたが、私もそう思っています。こどもたちを輝かせるためには、先生が輝かななくては駄目で、そういった部分で区長も本当に力を入れてくださって、小1支援員とか、スタンダード強化講師等を入れて、やはり先生たち1人に任せないでみんなで育てていこうということであったり、そういった支援策の力を入れていくところがありますので、これからはそういったところを含めて、こどもも輝く、先生も輝く、できれば私たちも輝く、江東区みんなが輝けるように教育を進めていきたいなと思っておりますので、是非区長にこれからご協力いただいて、こどもたちの教育、一緒に進めていければと思っています。ありがとうございます。

山 崎 区 長 その他にご意見ございませんか。よろしいですか。それでは本件は終わります。以上で本日の案件は終了いたしますが、事務局から何かございますか。

杉 村 次 長 事務局よりお知らせいたします。今年度の総合教育会議は、今回が最後の開催となります。次回の開催は、来年度を予定してございますが、緊急的にご議論いただくべき事項が生じましたら、調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

山 崎 区 長 どうもご苦労さまでした。眞貝教育委員がご退任ということになります。長い間、大変ご努力いただきまして、心から御礼を申し上げる次第でございますが、これからも色々な立場でバックアップしていただきますよう、お願いいたします。それでは、以上をもちまして、第2回江東区総合教育会議を閉会いたします。

―― 了 ――